



若竹通信

第62号



平成28年7月20日発行
徳島県立新野高等学校

先日、学校の東側にある用水路にホタルが飛び交っている様子が見られ、高校生の時、新野駅に向かう帰り道の光景を思い出しました。

本校が初めて甲子園の土を踏んだ平成4年、教師として帰ってきた母校、校門前のガラス温室のほかは何も変わっておらず懐かしさがこみ上げてきました。学校行事も東西南北対抗の体育祭、花坂峠や新野駅の清掃活動に花いっぱい運動、さらにはトップクラスの部活動が（ソフトテニスや剣道等が強豪だった時代も）あるなど、伝統は脈々と受け継がれていました。また、高校の先輩である岡久先生が始めた「イシマササユリの保護・保全活動」も次々と後輩教師に受け継がれ、今年で30年目になりました。

卒業生は、県内の各界で活躍しています。進路指導で企業訪問に行ったり校外学習に行くと、必ずと言っていいぐらい卒業生がいて応援してくれます。

高校生のみなさんは、決して一人ではありません、クラスメイトは勿論ですが11,000名を超える先輩がいます。自信を持って何事にも笑顔で一生懸命な高校生活を送って、素敵な社会人になってほしいと願ってやみません（14年ぶりに帰ってきた卒業生より）。

イシマササユリ保護活動Ⅰ 6月2日

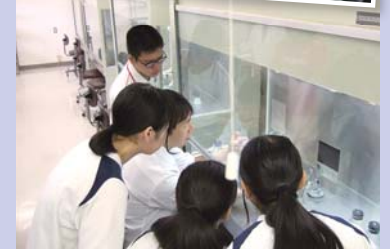


本校のバイオテクノロジーの技術を用い、絶滅危惧種のイシマササユリの球根を培養し、毎年この時期と11月の2回、伊島に球根を移植しています。この活動も今年で30年目を迎え、本校の伝統行事となっています。本校では、希少植物の保護に取り組んでおり、自然保護を積極的に推進した特色ある学校づくりを行っています。本年度も、伊島中学校の生徒の皆さんと一緒に球根を約400球移植してきました。



第1回 中学生バイオテクノロジー講座 6月17日

今年度も中学生を対象としたバイオテクノロジー講座を開催しました。近隣の中学校から（4名）参加していただき、無菌操作実験など熱心に取り組んでいました。



2016年度
3年次

主権者教育

主権者教育にとって最も大切なことは「自分の意見、考えをしっかりと持つこと」

6月29日(水)の1限目、総合的な学習の時間に3年次全体に主権者教育を実施しました。7月10日実施される参議院通常選挙のこともあり、特に「選挙」のしくみについて、劇団「生徒会」(3年次)のメンバーが、素晴らしい演技力で表現してくれました。見ていた多くの生徒たちも「よくわかって、いい勉強になりました。」「迫力ある演技に、立候補者の主張が伝わってきました。」などのコメントもきかれました。



6月7日 書道出張授業

四国大学名誉教授富久先生をお迎えして、書道の出張授業を行いました。

1・2・3年次生書道選択者が団扇にスパッタリングを施す授業を行いました。生徒たちは、熱心に取り組む、きれいな作品が完成しました。

